

平成 26 年度男女共同参画

標語・川柳 優秀作品

小中学生の部

最優秀賞

声をかけ できることから 共同参画
長久手市 大澤安奈

優秀賞

世界はね 男女平等 差別なし
南中 坂田聖弥

佳作

父と母 もちろん私も 家事やろう
長久手市 古賀野陽南子

家庭でも 家族で協力 楽しいね
南中 萩野治夏

助け合い この時間こそ 宝物
長久手市 館遼人

一般の部

最優秀賞

「ありがとう」 紋深まる 合い言葉
桝ヶ池 板倉純子

優秀賞

認め合う 平等社会に 性差なし
仏が根 立川里子

佳作

今日はママ 明日はパパねと はずむ声
片平 加藤八重子

ありがとう その一言で がんばれる
荒田 堀部由枝

ご飯だよ！ パapaの手料理 ママにこり
平池 加藤幸夫

男女共同参画情報紙 vol.10



トピックテーマ 女性の活躍

少子高齢化や人口減少社会の到来で、これまで以上に女性の活躍が期待されています。先進国では、管理職の3~4割が女性で、取締役にも女性があたりまえになっています。日本では管理職の女性比率はようやく1割。もっと女性がイキイキと活躍できる社会にしていきましょう。

2014ながくて市民まつりで市民インタビュー！

女性の管理職が増えることについて・・・

By 男女共同参画プロジェクトチーム N十色(次項参照)

賛成

賛成だけど、トレーニング、教育は必要。(男)
「女性だから～」と差別するのはおかしい！(女)

女性ならではの きめ細やかな 視点がある(男)
男女の違いを活かしながら、女性も社会で活躍(男)

どちらでもない

自分が管理職になるのは 気が進まない(女)
仕事と子育ての両立が 難しい・・・(女)

男性だけの視点だけでは 偏った施設しかできない。(男)
管理職になるよう 無理に 進める必要はない。(男)

反対

女性は甘えている！(男)
職場に受け入れる 環境がまだない！(女)

管理職には男性の方 が向いている。(女)
管理職になるよう 無理に 進める必要はない。(男)

N十色 インタビュアーの感想

女性から「どちらとも言えない」と「反対」を合わせた回答が全体の18%ほどあったことは複雑な気持ちで受け止めています。
女性に意欲がないのではという議論の前に、男性中心に社会の仕組みができていることに問題がありそうです。女性の社会進出と同時に男性の家庭進出を進める方策を考えなければと思いました。



編集後記

編集の経験のない私が、初めて文章を書かせていただきました。ひとつの情報紙が完成するまでに、たくさんの時間と時間がかけられることを知りました。家でも、家事をしながら文章を考えてた時は、社会と繋がってる感じでとても充実していました。これからも、「にじいろ」に関わっていけたら嬉しいです。(J.I.)

■企画・編集 / N十色 長久手市男女共同参画審議会

■発行 / 2015年(平成27年)4月

編集 / 長久手市くらし文化部 たつせがある課

〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1

電話 0561-56-0602 / FAX 0561-63-2100 メール tatsuse@city.nagakute.lg.jp

これまで、「共通、共同、共有」という意味の「コモン」というタイトルで発行してきたこの情報紙づくりに、初めて市民が関わったことを機に、タイトルを「にじいろ」に変更しました。「にじいろ」には、多様な生き方を認め合い、誰もがいきいきと暮らせる社会を目指したいという想いが込められています。

好きなことをカタチに 男女共同参画プロジェクトチーム

“N十色”が誕生！
ながくてといろ



誰もがいきいきと
暮らすまちのために
N十色が考えること

—「生きていくことは、全部仕事」—

こどもを保育園に迎えに行くこと、会社で働くこと、どちらも大切な仕事です。家事、育児、介護などの仕事も評価しながら、みんなが楽しく、楽(らく)に仕事をするために、色々な働き方を認め合うことが大切です。

—「女性の活躍・男性の活躍」—

くらしにより近い女性が会社で働き、活躍することで、仕事場に「くらし」が持ち込まれます。そうすることで、会社も社会も自ずと変わっていくでしょう。職場でも家庭でも、みんなが主役。女性も男性も活躍のフィールドは同じです。

「人から人へ」

自分の得意なことを活かし、手作り雑貨販売や、男女一緒に料理教室など、地域で人が出会う場をつくることで、くらしとしごとがつながり、みんながいきいきとくらしができるようにしたいです。

一緒にN十色で活動しましょう！！

男女共同参画社会を目指して、市民と市が一緒になって、初めての取り組むチーム「N十色」。今はまだ小さな種ですが、一緒に「N十色」を育てていきましょう！N十色の活動にぜひ参加してみたい！という方は、たつせがある課（裏面参照）へご連絡ください！

N十色は、「大人・こども・男・女など性別や立場に関わらず、みんながいきいきと暮らせるまち」を目指して集まった市民のチームです。

これまで6回のワークショップを行い、日常生活に身近なテーマで男女共同参画について考えてきました。これから、このN十色が想いや考えをカタチにし、発信していくことで、市民一人ひとりが男女共同参画について「気付き」、そして小さなことから「行動」していくけるまちにしていきます！

—「こども、どまんなか」—

何よりも第一に、未来を担うこどもたちが輝ける場を作りたいです。そのために、子育てママ同士のつながりの場や、先輩ママパパからの情報が入手できる場、親の交流拠点が必要です。

—「子育てに関する親の不安」—

子育て情報が必要である、という背景には子育てに対する親の不安があります。人が地域でつながり、皆が一緒になって不安を取り除いていきたいです。

「人々が集い合い、ワクワク語る場」

地域でのつながりが薄くなり、人と会話する場所も少なくなりました。特に、仕事中心の男性の中には、地域との関わりが持てないままの人が多いのでは・・・。テーマはなんであれ、色々な世代が語り合い、そして学びあうことで、色々な「生き方」があることを知ることで、見方や考え方が変化し、日常が楽しくなります。

- それぞれの「好きなことをカタチに！」
- 想いや考えを伝えるための情報紙づくり、イベント企画
- 多くの人と語る、交流するための映画祭、子育て情報交換会の開催
- 学び、理解するための講座、ワークショップの開催など

N十色が本音で語る！ 男女共同参画トークセッションを行いました！

3月14日「みんなのフォーラムながくての手2015」の一環で、

「しごとも子育てもみんなが主役」をテーマに男女共同参画トークセッションを開催しました。社会で働く母や父、主婦、若者それぞれの立場から、日々感じる想いや考えを語りました。



【1児の母、会社員】会社でも女性が働きやすくなつた。でも、男性の働き方も変えなければ家事や育児の女性が負担は減らない。

【3児の父、公務員】自身の父性は徐々に芽生えてきた。家事育児も子どもが増えるにつれ、参加ができるようになった。

しごとも子育てはもちろんですが、男だから女だから「できる」「できない」はほとんどありません。お互いを思いやるちょっとした一言で疲れもふっとぶもの。みんながそれぞれの個性や得意を活かしながら楽しく生活していきましょう。

【1児の母、主婦】生きていくことは全部仕事、つまり社会で働くこと、家事、育児すべてが仕事であるということを知り、価値観が変わり、自分に自信が持てた。

【大学生（男性）】母がとても大変な思いをして自分で育ててくれたことを最近知った。これからも家族支え合いながら、楽しく生活していきたい。

【参加者の感想】

「お疲れ様」の一言をかけるように心がけていきます。

男女共に意識、思い込みの改革が必要。まずは家庭で実践します！！

市役所の女性職員がいきいきと働き、活躍できるよう、平成26年6月「女性職員活躍促進プロジェクトチーム」を立ち上げ、検討してきました。約半年間にわたって何度も話し合いを重ねてきた結果を「女性職員の活躍促進に向けた施策提言」にまとめ、12月17日、プロジェクトメンバーから市長へ次のとおり提言をしました。

女性の活躍

“まずは市役所から”



《計画的な人材育成》

- ・職員の能力が十分に発揮できるような人事管理
- ・女性職員が出産や育児などを見据ながらキャリアアップしていくための支援

《ワークライフバランス推進》

- ・仕事と家庭の両立支援制度についての理解と活用
- ・定時に帰宅できるような環境づくり
- ・男性の両立支援制度の活用
- ・職場のコミュニケーション、チームワークの強化

《推進体制の確立》

提言内容を推進していくための体制づくり

ほっとぶれいくコラム

映画にもっと女性の活躍を！

映画制作に女性監督やライターが携わると、女性の登場人物も格段に増えているそうです。そういうふうに、女性の映画の監督も女性。さらに、女性リーダーたちの意見で、ヒロインが王子様に幸せにしてもらうストーリーから、姉妹愛の物語に変更させたそうです。女性がイキイキと活躍する映画、これから楽しみです。

映画の作り手も79%は男性です。女性は監督の7%、脚本家20%、プロデューサー23%。11カ国の平均で制作作者は男性3.9人に女性1人の割合。日本はさらに少なく、男性9.5人に女性1人と、映画の世界でも女性活躍が遅れています。

セリフのある登場人物のうち、女性は3分の1。アクションや冒険映画には女性は2割。薄物を羽織ったり裸だつたりと、女性は性的に描かれることが多い。リーダー役の女性は取締役で14%、トップ政治家で10%、という結果でした。

国連機関UN Womenが、昨年、映画と女性について、欧米や日本、韓国、中国など14カ国を対象とした世界的に初めての研究結果を発表しました。